

## 第 40 回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

<b>ゼミ名</b>	小林ゼミⅡ
<b>チーム名</b>	チーム☆コバキン
<b>タイトル</b>	年金制度について
<b>テーマ群</b>	c) 公共経済
<b>メンバー</b>	◎須田沙耶、岡美里、五百住有香、西海佳美、上村小百合、西浦優子、阿澤恭弘、大澤貴志、井出篤史、大山祐樹、田畑翔伍、山路正敏、南侑佑
<b>研究計画内容</b>	<p>私達、小林ゼミⅡでは年金制度を中心に学んできました。日本の公的年金制度は複雑である割に国民に詳しく説明するようなガイドブックもなく、それどころか政府でさえ曖昧にしている部分もあり、誰もが、複雑でわかりにくく、不公平で負担が高すぎると思っています。年金問題について、現在少子高齢化が進む中で、私達若者世代にとっては定年をむかえても年金を払った分より少ない金額しかもらえないかもしれないという問題をよく耳にします。年金の財源として消費税が議論になります。消費税を含め日本のこれからを考え税制をどうするかも課題となっています。それらを解決するために、年金制度の事をきちんと理解しておくべきだと思います。この問題以外にも年金制度には様々な問題点が存在しています。そこで私達は年金制度について、</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1.民主党が提案している一元化案というものについて調べ、本当に実現可能なのか、一元化する事が望ましいのか、その是非をまとめる。</li><li>2.菅総理大臣が消費税の税率アップを提案し、その際低所得者への負担軽減策として税の還付を提案しましたが、これを実現するには納税者番号、社会保障番号等をいかなる方式にするのがよいか検討する。</li><li>3.消費税の税率アップに関して、税率の高い外国がどのような措置をしているか、年金だけでなく社会保障全般の財源としての消費税について研究する。</li><li>4.財源としての消費税を含め、ほかの諸国、特にヨーロッパにおいてはどんな問題を抱えているのか。以上の 4 つの視点から現在の年金制度の実態と問題、これからどうしていきべきかを民主党のホームページ、新聞記事や本による情報などからまとめ、それぞれ研究しました。これらの内容は、これから社会に出て行く私達にとって知っておく事が必要不可欠だと思います。</li></ol>

